

第Ⅱ部 授業評価アンケート

1. 授業評価アンケート(学部)

1-1. アンケート概要

学部における授業改善に向けて2004年度から学部生を対象とした個別の授業に対する授業評価アンケートを実施している。調査概要は以下のとおりである。

【概要】

(1) 調査目的

「武蔵大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程(平成 21 年4月 16 日制定)」に基づき、学部の教育活動の組織的改善に資する取組みとして、学部授業評価アンケートを実施。

(2) 調査対象

武蔵大学に在籍している学部生(ただし、休学、留学中の学生を除く)。

(3) 調査方式

学内ポータルサイト(3S)より回答。

(4) 設問項目

次ページを参照

(5) 実施期間

[Spring1科目]	2025年5月19日(月)	～	2025年5月30日(金)
[春学期・Spring2科目]	2025年6月30日(月)	～	2025年7月18日(金)
[秋学期・Autumn1・Autumn2科目]	2025年12月1日(月)	～	2025年12月19日(金)

- 本アンケートは、授業を改善し、さらに充実させることや教育改善を目的に実施するものです。
- 回答内容が成績評価に影響を与えることは決してありません。
- 担当教員は、集計された結果のみを見ますので、学生一人ひとりの回答を見ることはありません。
- 授業をより良いものにするという意識のもとに、素直かつ責任をもって回答してください。
- 自由記述欄の回答が、担当教員に対する人権侵害等にあたる内容を含むと判断される場合は、事務局により個人を照会の上、しかるべき対応をとります。
- プライバシー保護のため、自由記述の記入内容に関しては授業担当者へ直接伝えることはせず、大学として今後の授業改善の参考とします。
- 設問の一部はベストティーチャー賞の選定に用います。

※必須設問をすべて回答しないと送信できませんが、回答中の一時保存は可能です。また、回答済みの授業評価でも、実施期間中であれば何度でも修正することができます。

【Ⅰ】この授業のあなたの取り組みについて、以下の項目にどの程度当てはまりますか？

1. この授業はシラバスに沿って行われていましたか？（必須）

- 強く思う まあ思う どちらともいえない あまりそう思わない 全くそう思わない

2. あなたはこの授業に関して、予習・復習など授業外での取り組みを1週間でどのくらい行ないましたか？（必須）

- 4時間以上 4時間未満～3時間以上 3時間未満～2時間以上
 2時間未満～1時間以上 1時間未満 全くしなかった

【Ⅱ】この授業の内容について、以下の項目にどの程度当てはまりますか？

1. 総合的にみて、この授業は満足できた（必須）

- 強く思う まあ思う どちらともいえない あまりそう思わない 全くそう思わない

2. 授業内容を理解できた（必須）

- 強く思う まあ思う どちらともいえない あまりそう思わない 全くそう思わない

3. 授業内容に興味を持てた（必須）

- 強く思う まあ思う どちらともいえない あまりそう思わない 全くそう思わない

4. 授業の進行速度は適切だった（必須）

- 強く思う まあ思う どちらともいえない あまりそう思わない 全くそう思わない

5. 教員は質問や問い合わせに適切に対応してくれた（必須）

- 強く思う まあ思う どちらともいえない あまりそう思わない 全くそう思わない
 質問や問い合わせをしなかった

6. この授業を特に優れた授業として他の学生に勧めたい（必須）

- 強く思う まあ思う どちらともいえない あまりそう思わない 全くそう思わない

7. 「自ら調べ自ら考える」ことが楽しくなった（必須）

- 強く思う まあ思う どちらともいえない あまりそう思わない 全くそう思わない

【Ⅲ】あなたはこの授業を受けることで、以下の知識・能力・態度が身につきましたか？

1. 深い教養・幅広い知識（必須）

- とても身についた まあ身についた どちらともいえない あまり、身につかなかった
全く身につかなかった 該当しない

2. 専門的知識（必須）

- とても身についた まあ身についた どちらともいえない あまり、身につかなかった
全く身につかなかった 該当しない

3. 主体的な学習態度（必須）

- とても身についた まあ身についた どちらともいえない あまり、身につかなかった
全く身につかなかった 該当しない

4. 批判的な学習態度（必須）

- とても身についた まあ身についた どちらともいえない あまり、身につかなかった
全く身につかなかった 該当しない

5. 共感力（必須）

- とても身についた まあ身についた どちらともいえない あまり、身につかなかった
全く身につかなかった 該当しない

6. 対話力（必須）

- とても身についた まあ身についた どちらともいえない あまり、身につかなかった
全く身につかなかった 該当しない

7. グローバルな思考力（必須）

- とても身についた まあ身についた どちらともいえない あまり、身につかなかった
全く身につかなかった 該当しない

8. 外国語運用能力（必須）

- とても身についた まあ身についた どちらともいえない あまり、身につかなかった
全く身につかなかった 該当しない

9. 学びを活用する実践力（必須）

- とても身についた まあ身についた どちらともいえない あまり、身につかなかった
全く身につかなかった 該当しない

【Ⅳ】自由記述

この授業に対する、良かった点・改善を要する点、何か意見等がありましたらお書きください。

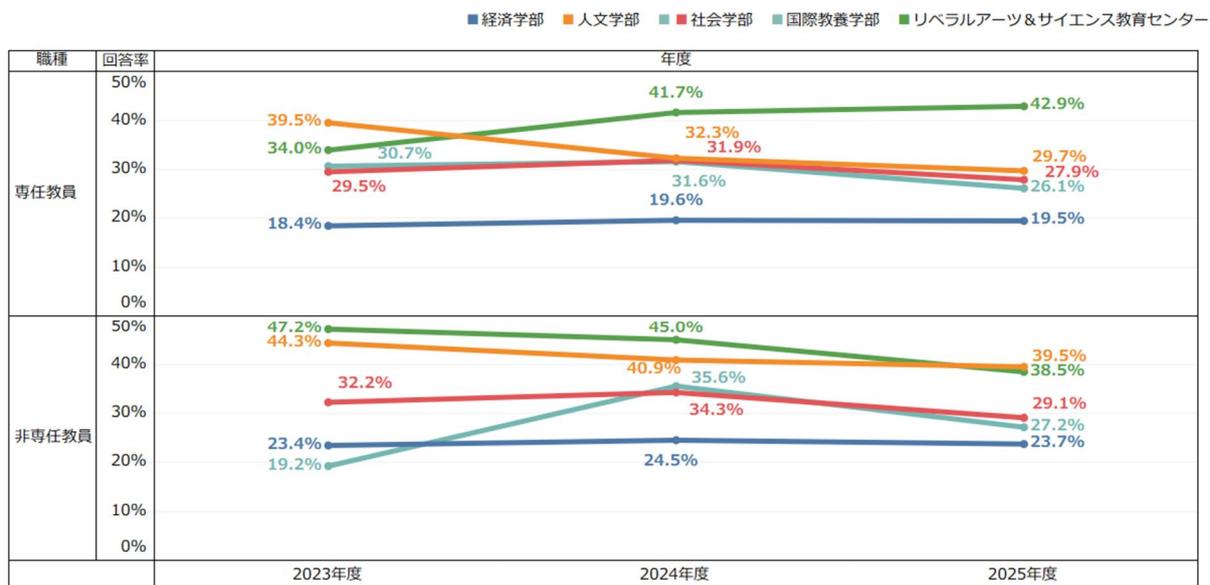
※ただし、誹謗中傷は避けて回答してください。

※回答が、担当教員に対する人権侵害等にあたる内容を含むと判断される場合は、個人を照会の上、しかるべき対応をとります。

※プライバシー保護のため、自由記述の記入内容に関しては授業担当者へ直接伝えることはせず、大学として今後の授業改善の参考とします。

1-2. アンケート回答率

以下は 2025年度に実施した授業評価アンケートの教員所属・職種別の回答率である。

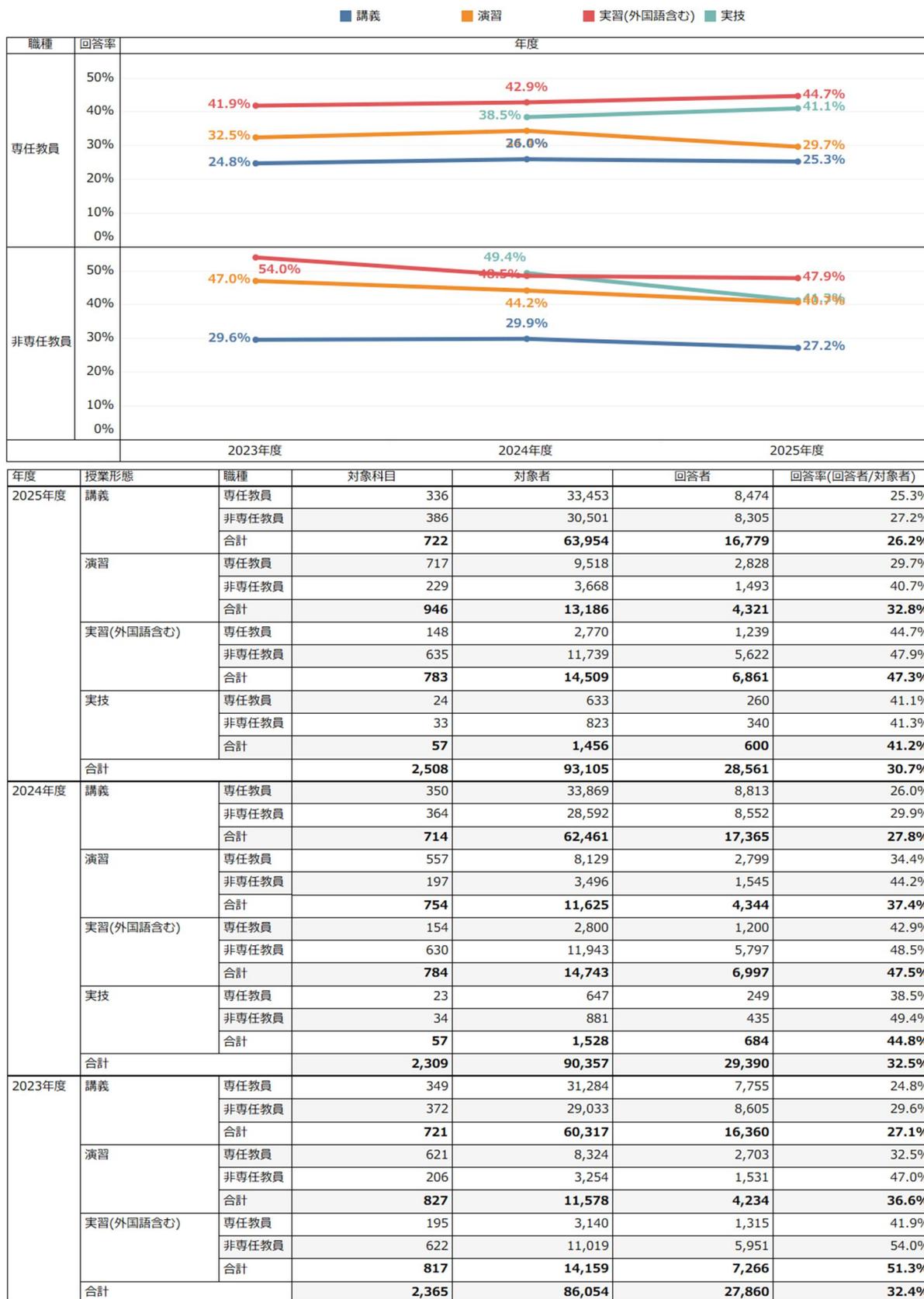


年度	所属学部	職種	対象科目	対象者	回答者	回答率(回答者/対象者)
2025年度	経済学部	専任教員	344	17,076	3,322	19.5%
		非専任教員	136	10,994	2,609	23.7%
		合計	480	28,070	5,931	21.1%
	人文学部	専任教員	360	8,658	2,572	29.7%
		非専任教員	862	23,189	9,157	39.5%
		合計	1,222	31,847	11,729	36.8%
	社会学部	専任教員	192	9,918	2,766	27.9%
		非専任教員	134	7,352	2,139	29.1%
		合計	326	17,270	4,905	28.4%
	国際教養学部	専任教員	169	2,744	717	26.1%
		非専任教員	67	1,270	345	27.2%
		合計	236	4,014	1,062	26.5%
	リベラルアーツ&サイエンス教育センター	専任教員	160	7,978	3,424	42.9%
		非専任教員	84	3,926	1,510	38.5%
合計		244	11,904	4,934	41.4%	
合計		2,508	93,105	28,561	30.7%	
2024年度	経済学部	専任教員	304	17,540	3,436	19.6%
		非専任教員	131	10,284	2,521	24.5%
		合計	435	27,824	5,957	21.4%
	人文学部	専任教員	330	8,347	2,695	32.3%
		非専任教員	879	23,989	9,807	40.9%
		合計	1,209	32,336	12,502	38.7%
	社会学部	専任教員	164	9,237	2,943	31.9%
		非専任教員	115	6,815	2,335	34.3%
		合計	279	16,052	5,278	32.9%
	国際教養学部	専任教員	184	3,102	980	31.6%
		非専任教員	23	585	208	35.6%
		合計	207	3,687	1,188	32.2%
	リベラルアーツ&サイエンス教育センター	専任教員	102	7,219	3,007	41.7%
		非専任教員	77	3,239	1,458	45.0%
合計		179	10,458	4,465	42.7%	
合計		2,309	90,357	29,390	32.5%	
2023年度	経済学部	専任教員	353	17,407	3,211	18.4%
		非専任教員	125	10,914	2,558	23.4%
		合計	478	28,321	5,769	20.4%
	人文学部	専任教員	327	7,358	2,910	39.5%
		非専任教員	878	23,065	10,228	44.3%
		合計	1,205	30,423	13,138	43.2%
	社会学部	専任教員	177	7,792	2,299	29.5%
		非専任教員	133	6,596	2,127	32.2%
		合計	310	14,388	4,426	30.8%
	国際教養学部	専任教員	227	3,261	1,000	30.7%
		非専任教員	25	411	79	19.2%
		合計	252	3,672	1,079	29.4%
	リベラルアーツ&サイエンス教育センター	専任教員	81	6,930	2,353	34.0%
		非専任教員	39	2,320	1,095	47.2%
合計		120	9,250	3,448	37.3%	
合計		2,365	86,054	27,860	32.4%	

2025年度の回答率を教員所属別にみると昨年度に引き続き、リベラルアーツアンドサイエンス教育センターが最も高く41.4%となっている。

また、教員所属・職種別に見ると、専任教員ではリベラルアーツアンドサイエンス教育センターが最も高く42.9%、非専任教員では人文学部で39.5%となっている。

以下は授業評価アンケートの授業形態・職種別の回答率である。



2024年度の回答率を授業形態別にみると実習(外国語含む)が最も高く47.3%となっている。

また、教員所属・職種別にみると、専任教員・非専任教員ともに実習(外国語含む)が最も高く、専任教員44.7%、非専任教員47.9%となっている。

1-3. アンケート集計結果及び考察

ここでは 2025 年度に実施した授業評価アンケートに基づき、設問ごとに授業評価アンケートの集計結果及び考察を示す。分類方法は以下の通り。

- ・【総合科目】講義／演習／実技
- ・【外国語科目】実習
- ・【経済学部科目】講義／演習
- ・【人文学部科目】講義／演習／実習
- ・【社会学部科目】講義／演習
- ・【国際教養学部科目】講義／演習／実習
- ・【国際関連科目】講義／演習／実習
- ・【教職・学芸員科目】講義／演習

※経済学部、社会学部、教職・学芸員科目の実習は回答がなかったため、分類をしていない。

【I. 授業への取組状況】

I-1. この授業はシラバスに沿って行われていましたか？

ほとんど全ての科目分類において、「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が、80%を超える結果となった。特に「総合科目」の「実技」（「強くそう思う」が 74.7%）や「演習」（63.9%）では肯定的な割合が非常に高い数値となっており、シラバスに基づいた計画的な授業運営がなされているといえる。

I-2. あなたはこの授業に関して、予習・復習など授業外での取り組みを1週間でのどのくらい行ないましたか？

「総合科目」の「講義」では「1時間未満」や「全くしなかった」と回答した割合が多数を占める一方で、「国際教養学部科目」の「演習」では「3時間以上」と回答した割合が約 30%と一定数存在しており、科目分類・授業形態による学習時間の差が顕著に表れる結果となった。

【II. 授業評価】

II-1. 総合的にみて、この授業は満足できたか

多くの科目分類・授業形態において、「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が、80%を超える結果となった。特に「総合科目」の「実技」では「強くそう思う」の割合が 78.0%を超えており非常に高い数値となっている。また、全体として「講義」よりも「演習」、「実習」及び「実技」の方が満足度が高い傾向がある。

II-2. 授業内容を理解できた

「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が、「国際関連科目」の「実習」を除いた全ての科目分類・授業形態において 75%を超える結果となった。「国際関連科目」の「実習」では回答者数が少ないものの、「強くそう思う」「まあそう思う」の割合が他の科目分類・授業形態と比較すると低い傾向があるため、注意が必要である。

II-3. 授業内容に興味を持てた

「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が、全体的に高い水準となる結果となった。特に「総合科目」の「実技」（75.8%）において「強くそう思う」と回答した割合が突出している。

II-4. 授業の進行速度は適切だった

多くの科目分類・授業形態において、「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が多くの科目で 80%を超える結果となり、全体を通して適切なペースで授業が進行していることが窺える。特に「総合科目」の「実技」（75.0%）や「演習」（58.8%）では、「総合科目」の「講義」（42.6%）と比較して「強くそう思う」と回答した割合が高く、履修者の理解度や状況に合わせた柔軟な進行が行われている傾向がある。

II-5. 教員は質問や問い合わせに適切に対応してくれた

「質問や問い合わせをしなかった」層が一定数(「総合科目」の「講義」で 19.8%など)存在するものの、実際にアクションを起こした学生の間では「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が高く、概ね高く評価される結果となった。中でも「外国語科目」の「実習」や各学部の「演習」など、教員と学生の距離が近い少人数科目ほど「強くそう思う」の割合が高くなる傾向がある。

II-6. この授業を特に優れた授業として他の学生に勧めたい

「総合科目」の「講義」などを含め、全体的に「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合は一定の評価を得ている結果となった。特に「総合科目」の「実技」や「国際教養学部科目」の「演習」及び「実習」において「強くそう思う」と回答した割合が突出している。

II-7. 「自ら調べ自ら考える」ことが楽しくなった

「強くそう思う」と回答した割合が、「演習」や「実技」において 40%から 50%台と高い結果となった。前大使として「演習」のほうが良い結果であることから、アクティブ・ラーニングの要素が強い科目ほど、主体的な探究心を促す教育効果が顕著に表れる傾向がある。

【III. 身についた知識・能力・態度】

III-1. 深い教養・幅広い知識

全体として、「とても身についた」「まあ身についた」と回答した割合が、「講義」において 80%を超える結果となった。特に「国際教養学部科目」の「演習」(66.7%)や「国際関連科目」の「演習」(66.7%)などにおいて「とても身についた」と回答した割合が高い傾向がある。

III-2. 専門的知識

全体として、「とても身についた」「まあ身についた」と回答した割合が8割近い数字となった。特に「国際教養学部」の「演習」(63.6%)が非常に高い数値となっている。

III-3. 主体的な学習態度

全体として、「講義」においても肯定的な回答が多数を占めるものの、能動的な参加を求める実践型科目の方が、学生の主体的姿勢を引き出しやすい結果となった。特に「国際関連科目」の「実習」(61.0%)や「総合科目」の「実技」(59.7%)、「国際教養学部科目」の「演習」(57.6%)において「とても身についた」と回答した割合が突出して高い傾向がある。

III-4. 批判的な学習態度

全体として「演習」において肯定的な評価が高い傾向がある。「国際教養学部科目」の「演習」(62.6%)や「国際関連科目」の「講義」(56.1%)で「とても身についた」と回答した割合が極めて高い一方で、「総合科目」の「実技」(33.7%)や「人文学部科目」の「実習」(18.0%)などにおいて「該当しない」と回答した割合が高くなっている。

III-5. 共感力

対人コミュニケーションや他者との協働を伴う「演習」や「実習」、「実技」といった授業形態において、肯定的な評価が高くなる傾向がある。「国際関連科目」の「講義」(63.4%)や「国際教養学部科目」の「演習」(58.6%)において「とても身についた」と回答した割合が突出している反面、「総合科目」の「実技」(20.0%)や「総合科目」の「演習」(19.7%)などにおいて「該当しない」が約2割を占めている。

Ⅲ-6. 対話力

グループワーク等を伴う「実技」や「演習」、「実習」といった少人数・実践型の授業形態において、肯定的な評価が顕著に高い傾向がある。

「国際関連科目」の「講義」(68.3%)や「国際教養学部科目」の「演習」(58.6%)、「総合科目」の「実技」(57.2%)で「とても身についた」と回答した割合が非常に高いのに対し、「人文学部科目」の「講義」(39.7%)や「社会学部科目」の「講義」(33.0%)などにおいて「該当しない」と回答した割合が高くなっている。

Ⅲ-7. グローバルな思考力

科目分類・授業形態間での評価の乖離が極めて目立つ結果となった。「国際関連科目」の「講義」(70.7%)や「国際教養学部科目」の「演習」(56.6%)において「とても身についた」と回答した割合が突出する反面、「教職・学芸員科目」の「演習」(50.0%)や「総合科目」の「実技」(48.2%)において「該当しない」と回答した割合が高く占めている。

Ⅲ-8. 外国語運用能力

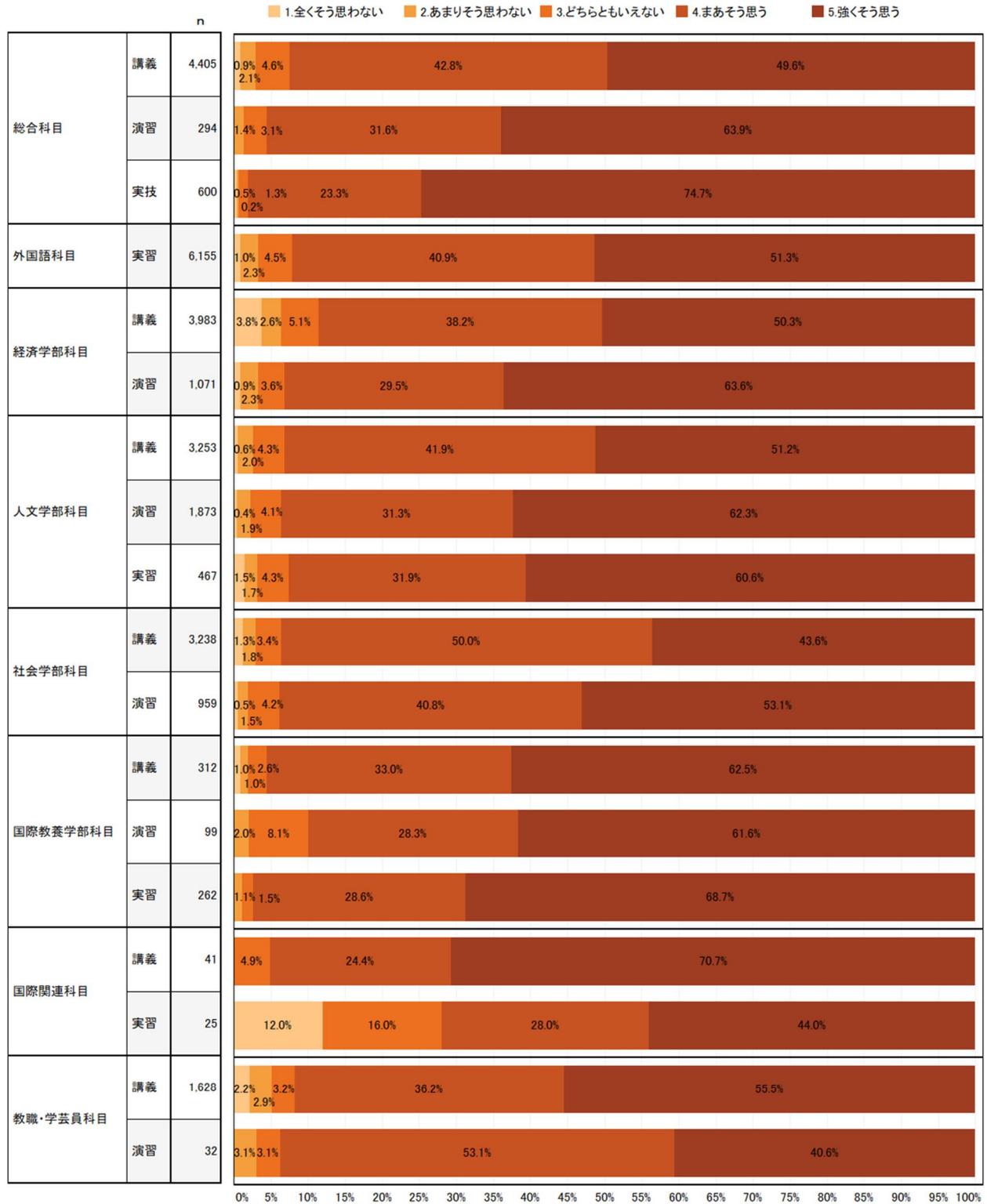
「該当しない」と回答した割合が、「総合科目」の「講義」(52.8%)や「人文学部科目」の「演習」(58.5%)、「総合科目」の「演習」(49.0%)で半数前後を占める結果となった。語学教育を担う「外国語科目」等とそうでない科目の役割分担が極めて明確に分かれる傾向がある。

Ⅲ-9. 学びを活用する実践力

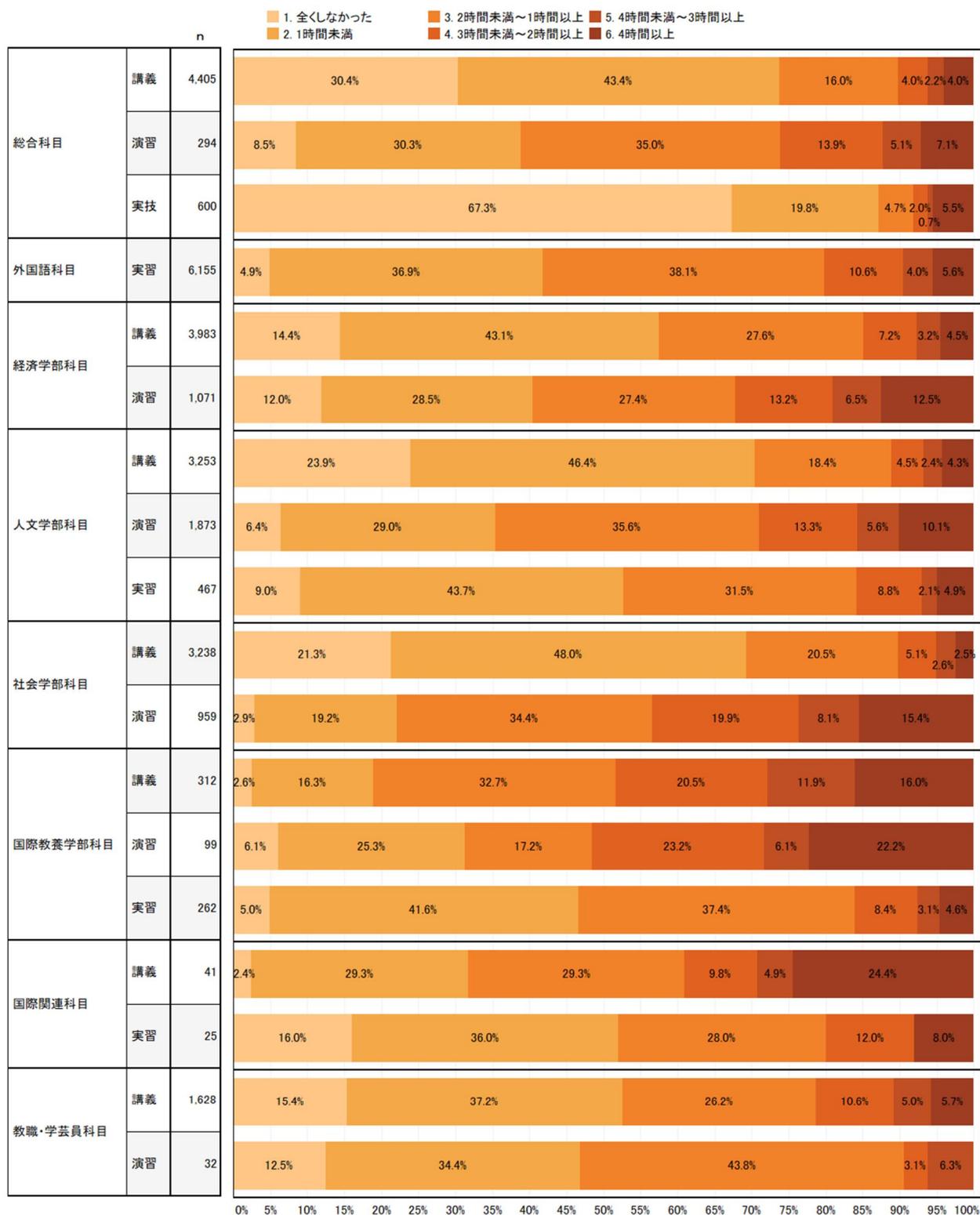
「とても身についた」「まあ身についた」と回答した割合が、多くの授業形態において高く、授業での学びが実践的な力として還元されている結果となった。特に「国際教養学部科目」の「実習」(59.2%)や「演習」(55.6%)、「総合科目」の「実技」(51.5%)などにおいて非常に高い数値となる一方、「人文学部科目」の「講義」(13.8%)や「総合科目」の「実技」(12.5%)では「該当しない」と回答する傾向がある(※総合科目の実技は肯定評価と非該当が混在し、評価が二極化している特徴が見られます)。

【I】この授業のあなたの取り組みについて、以下の項目にどの程度当てはまりますか？

【設問 I-1】この授業はシラバスに沿って行われていましたか？

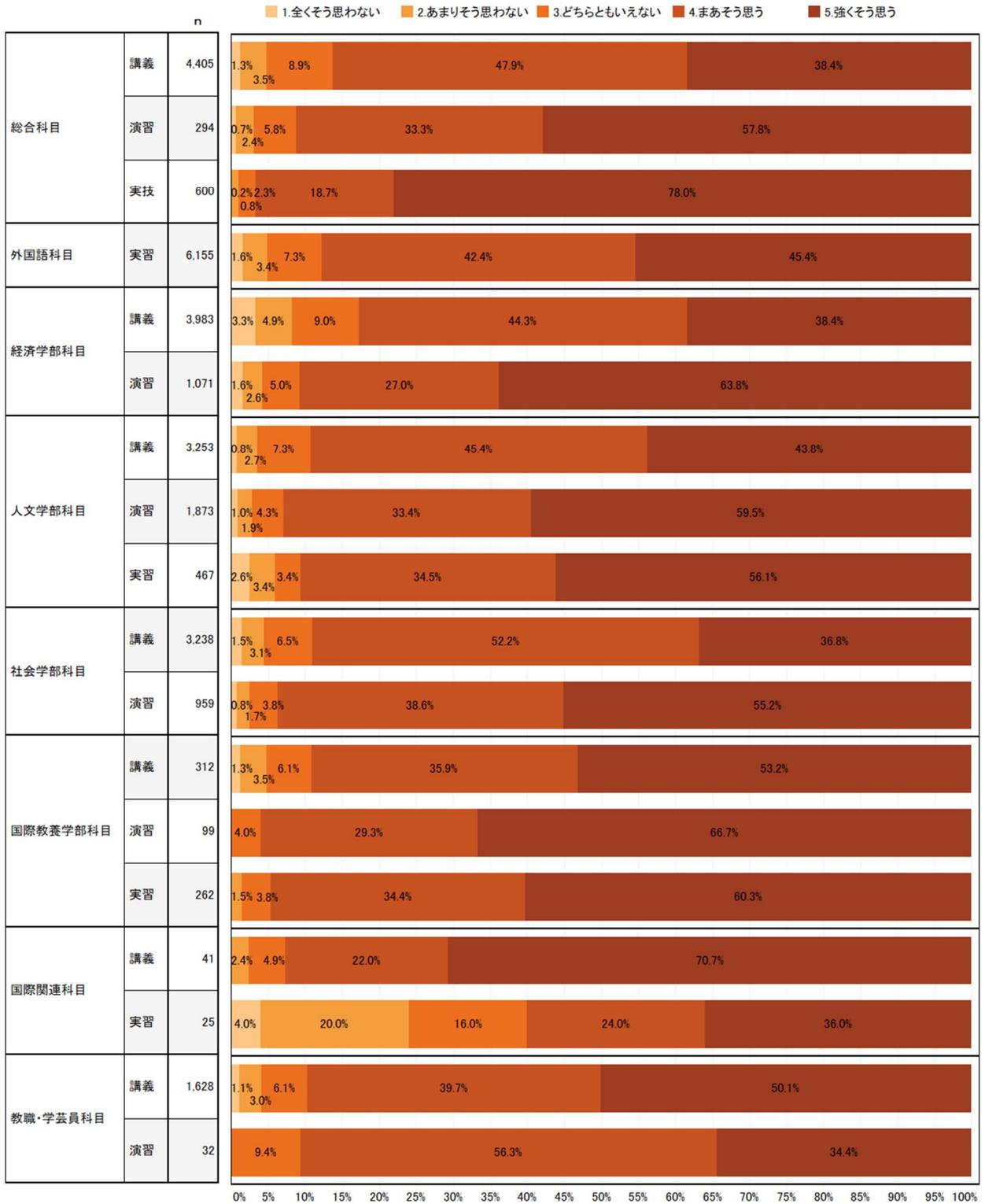


【設問 I-2】あなたはこの授業に関して、予習・復習など授業外での取り組みを1週間でどのくらい行ないましたか？

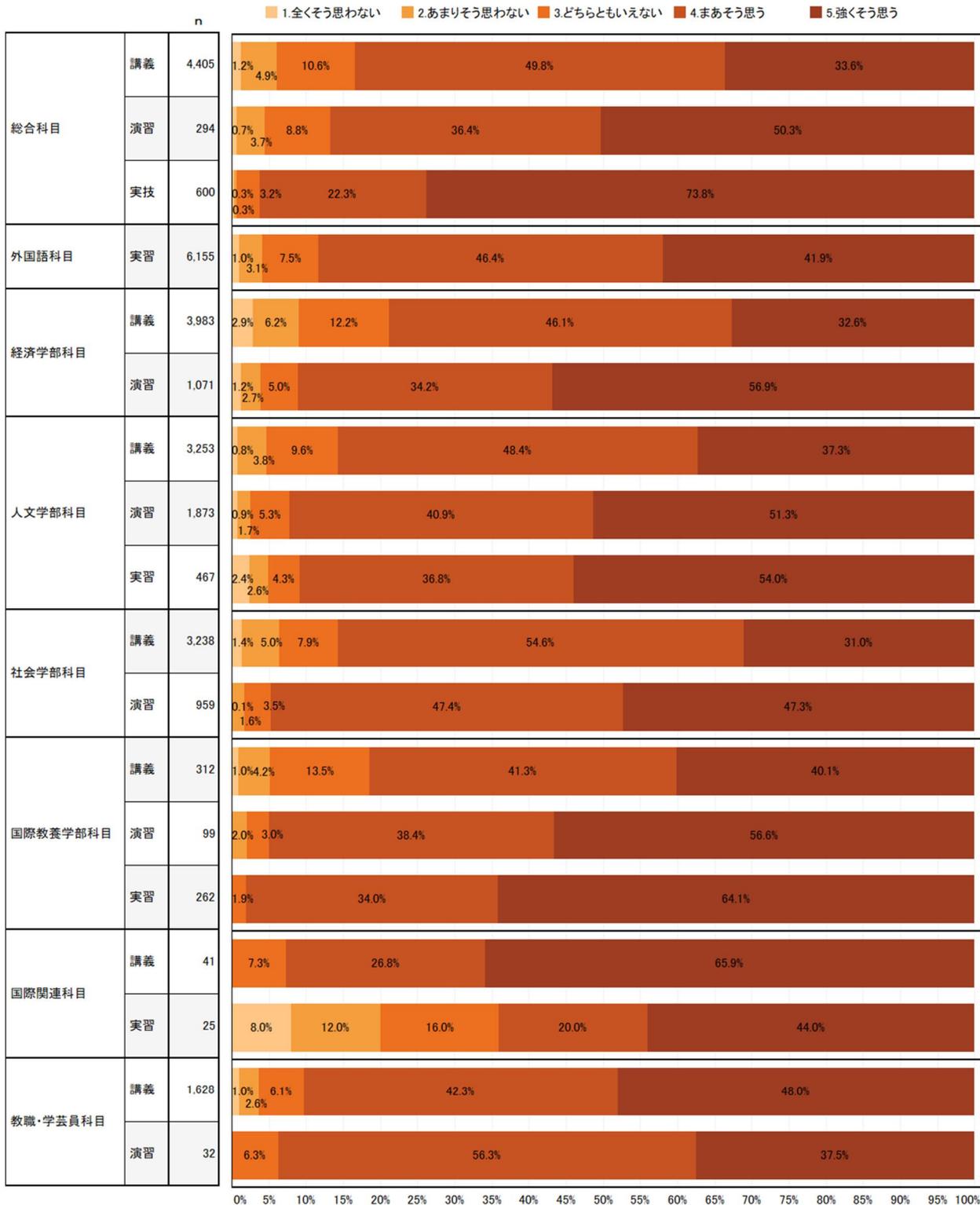


【Ⅱ】この授業の内容について、以下の項目にどの程度当てはまりますか？

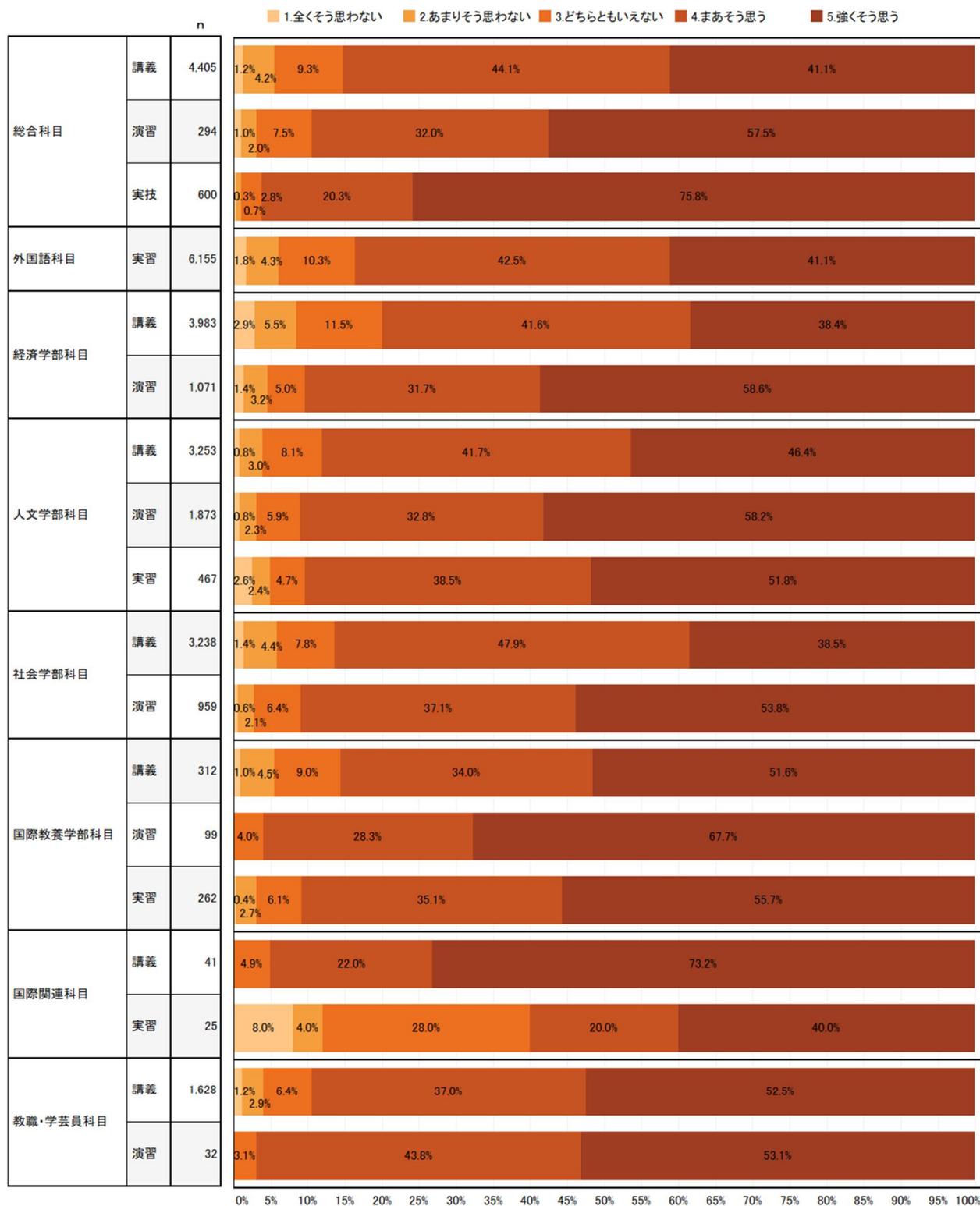
【設問Ⅱ-1】総合的にみて、この授業は満足できた



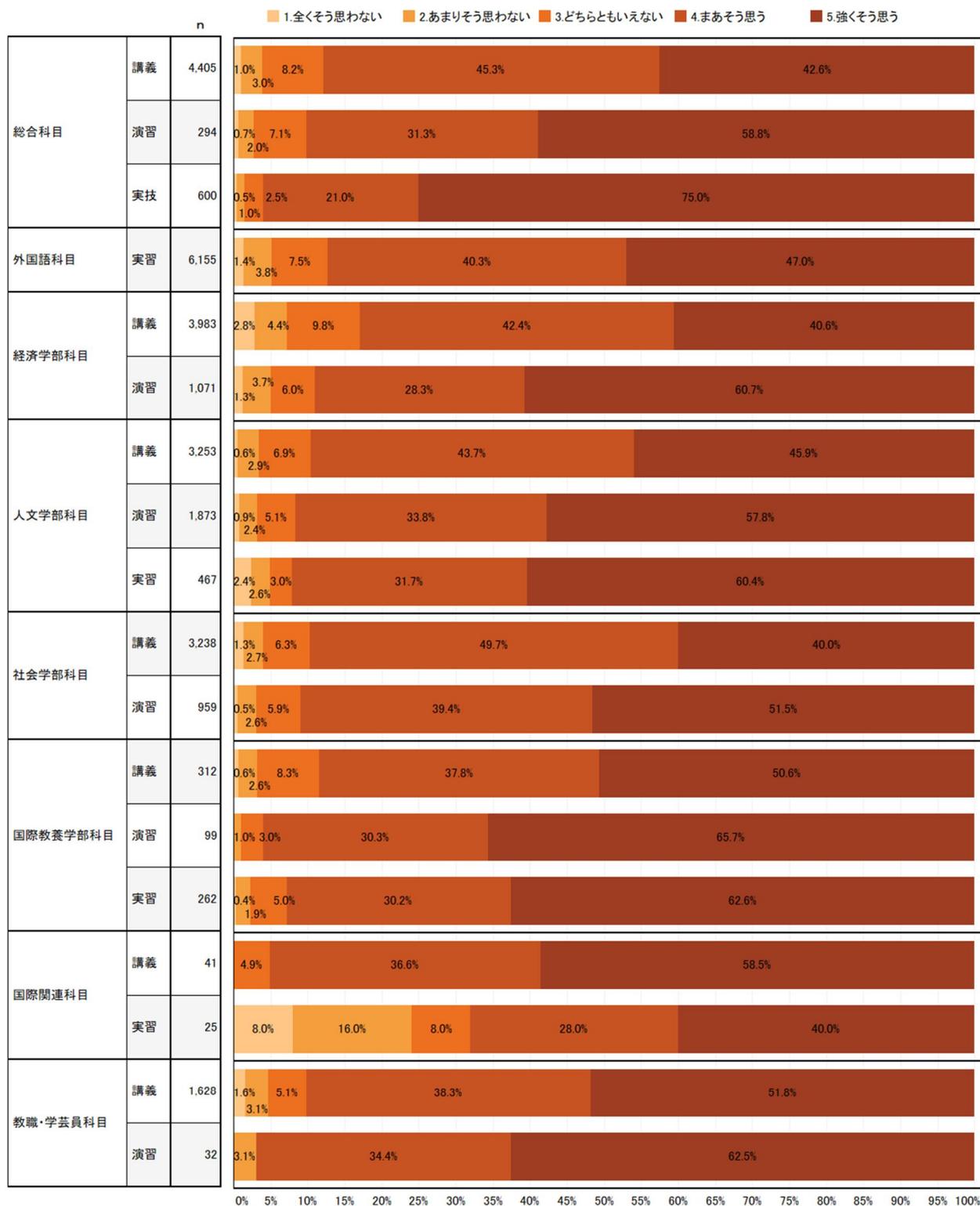
【設問Ⅱ-2】授業内容を理解できた



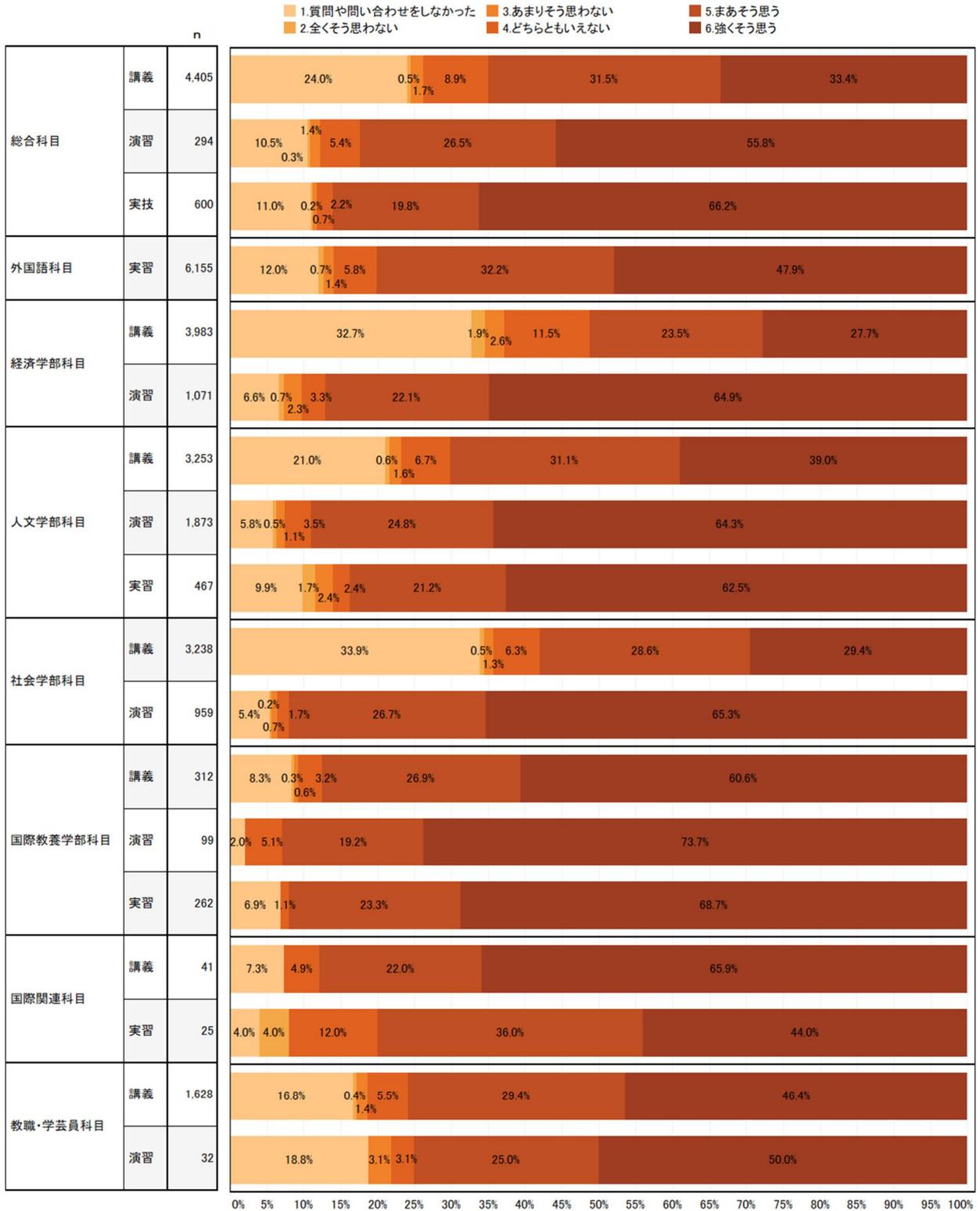
【設問Ⅱ-3】授業内容に興味を持てた



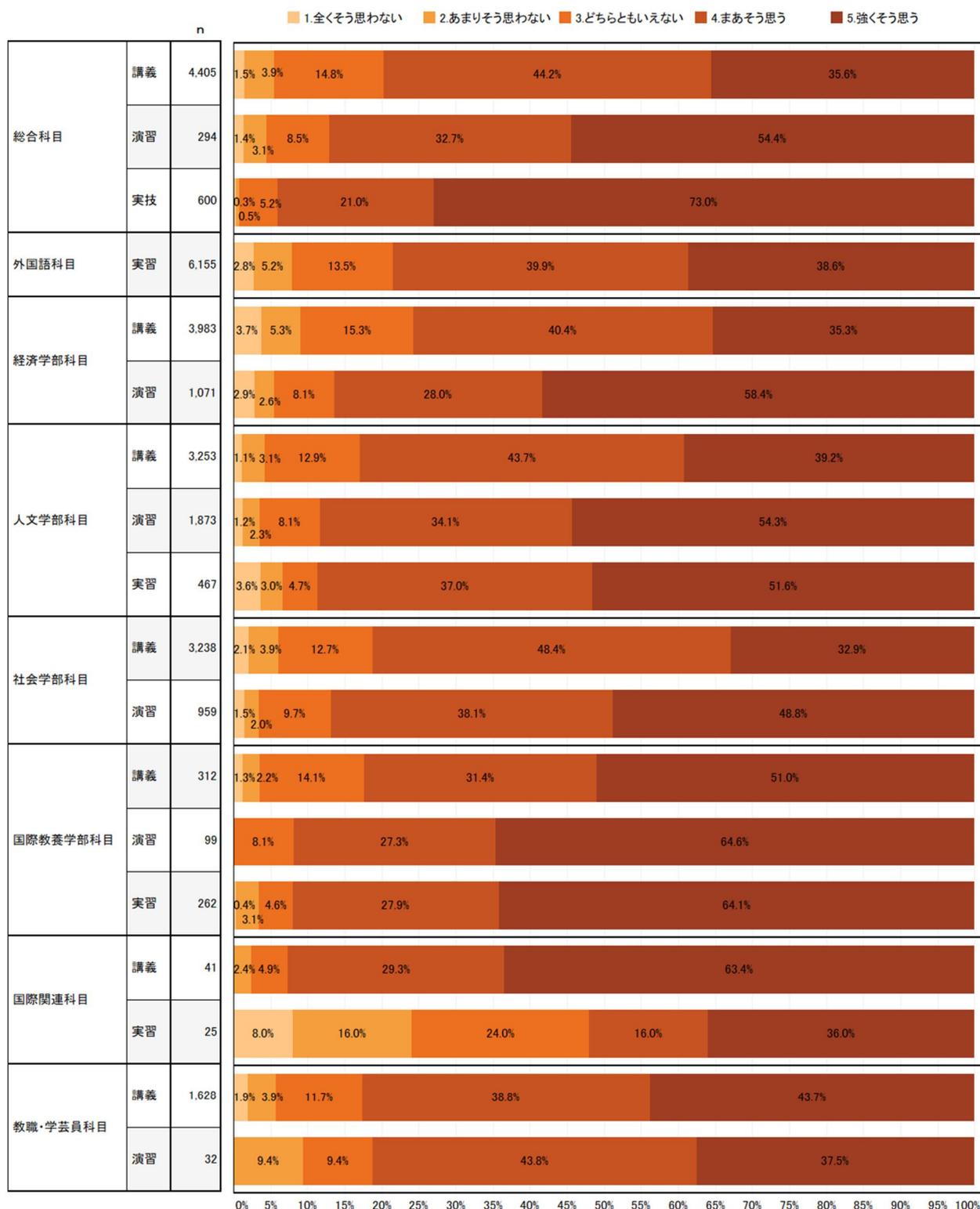
【設問Ⅱ-4】授業の進行速度は適切だった



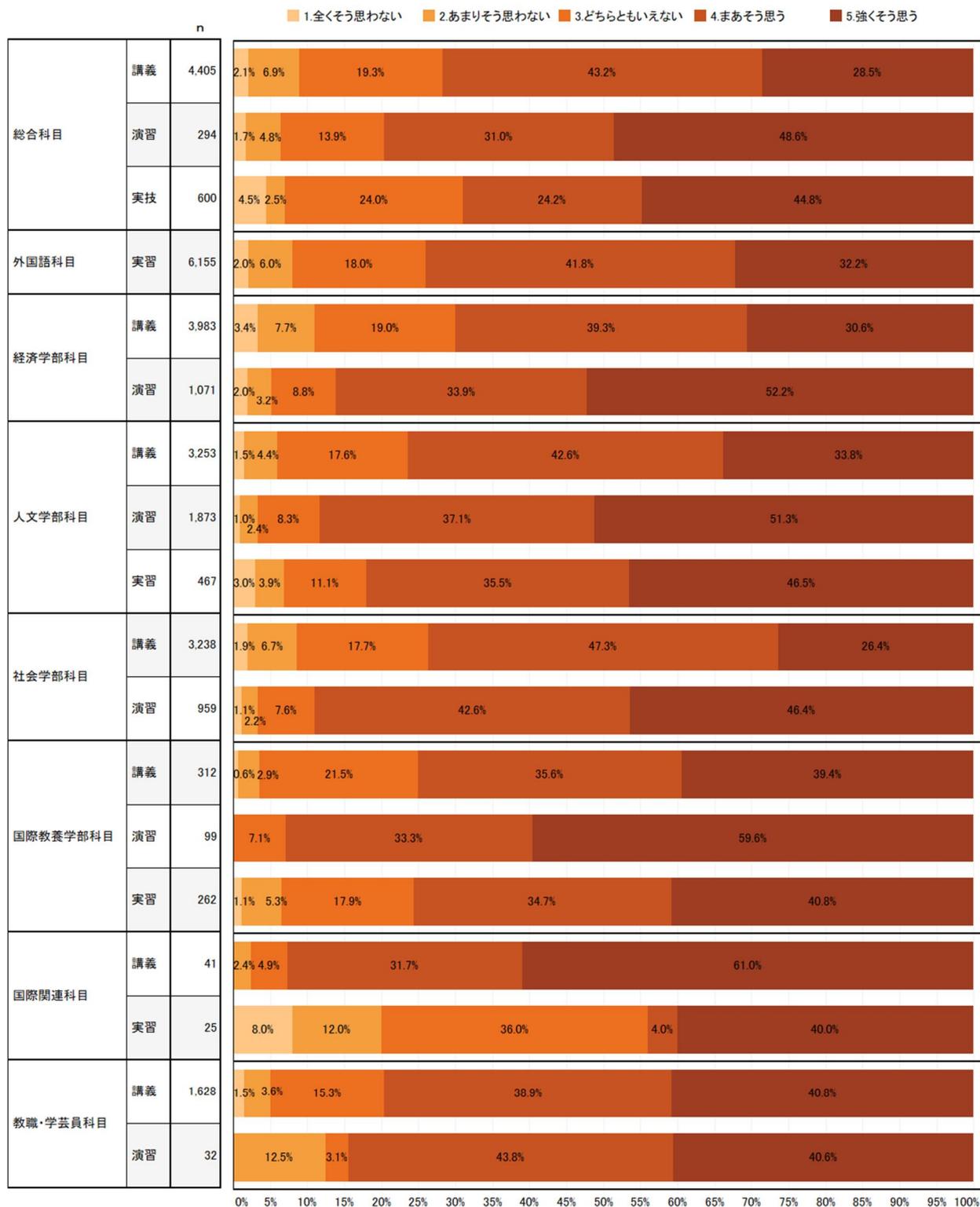
【設問Ⅱ-5】教員は質問や問い合わせに適切に対応してくれた



【設問Ⅱ-6】この授業を特に優れた授業として他の学生に勧めたい

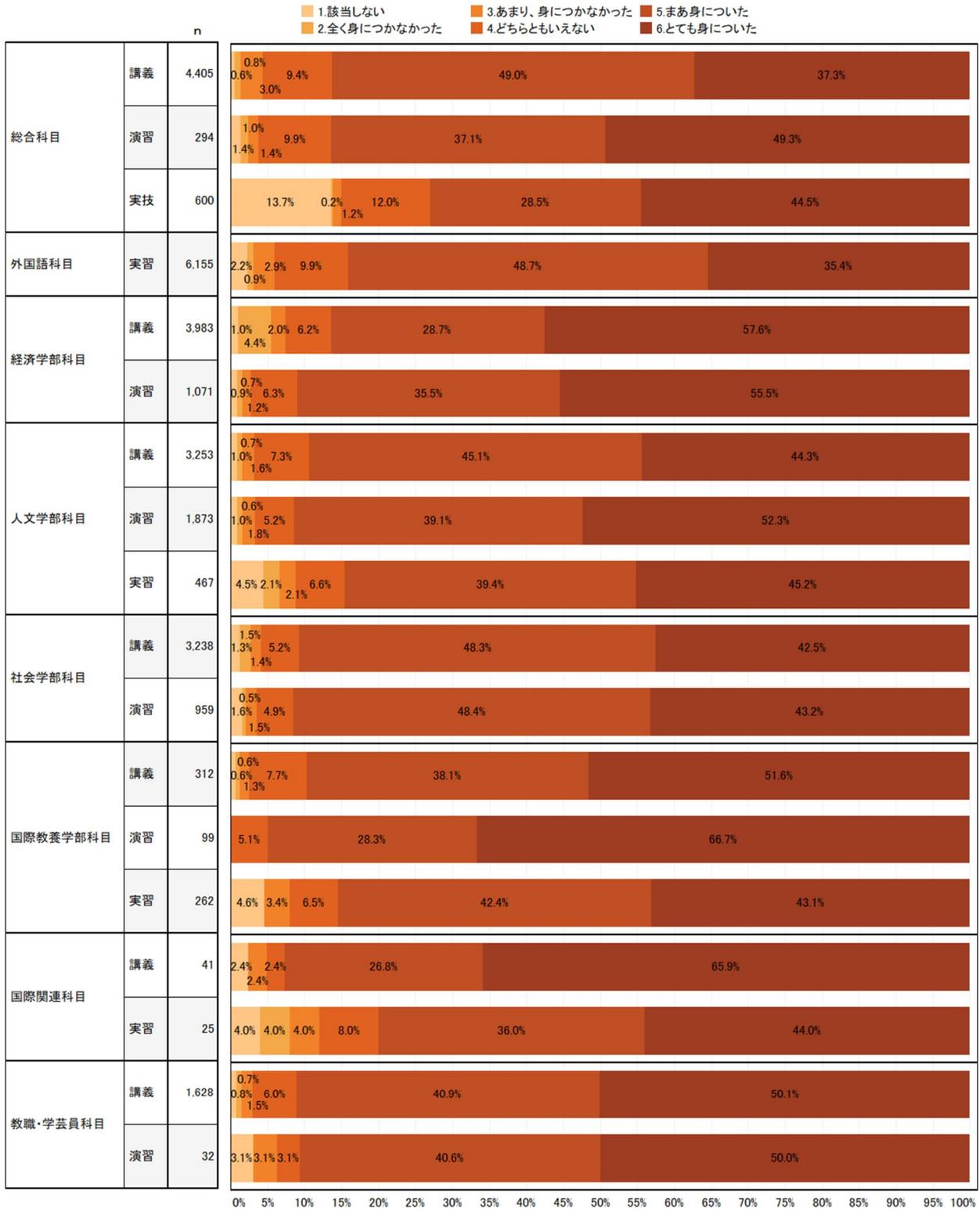


【設問Ⅱ-7】「自ら調べ自ら考える」ことが楽しかった

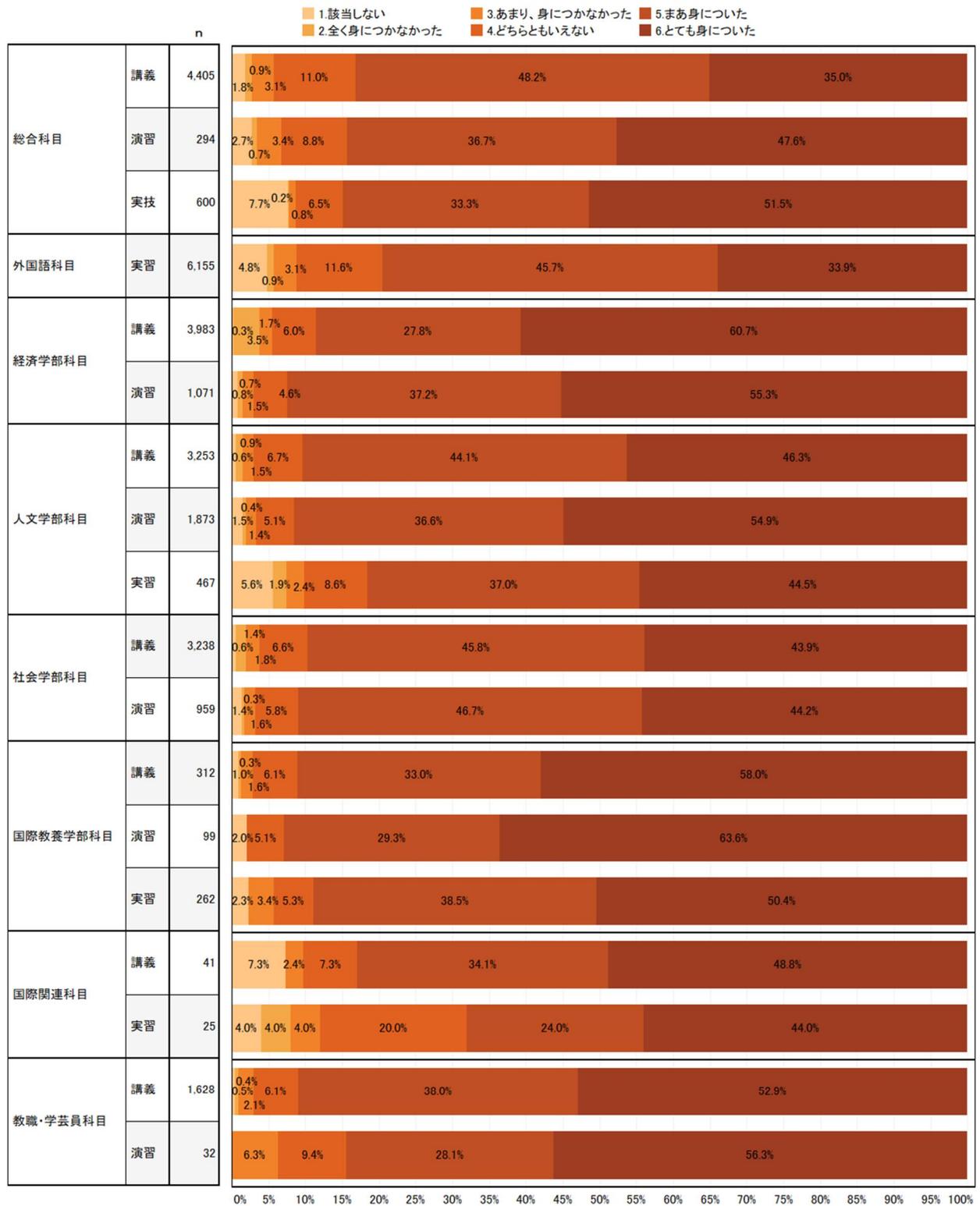


【Ⅲ】あなたはこの授業を受けることで、以下の知識・能力・態度が身に付きましたか？

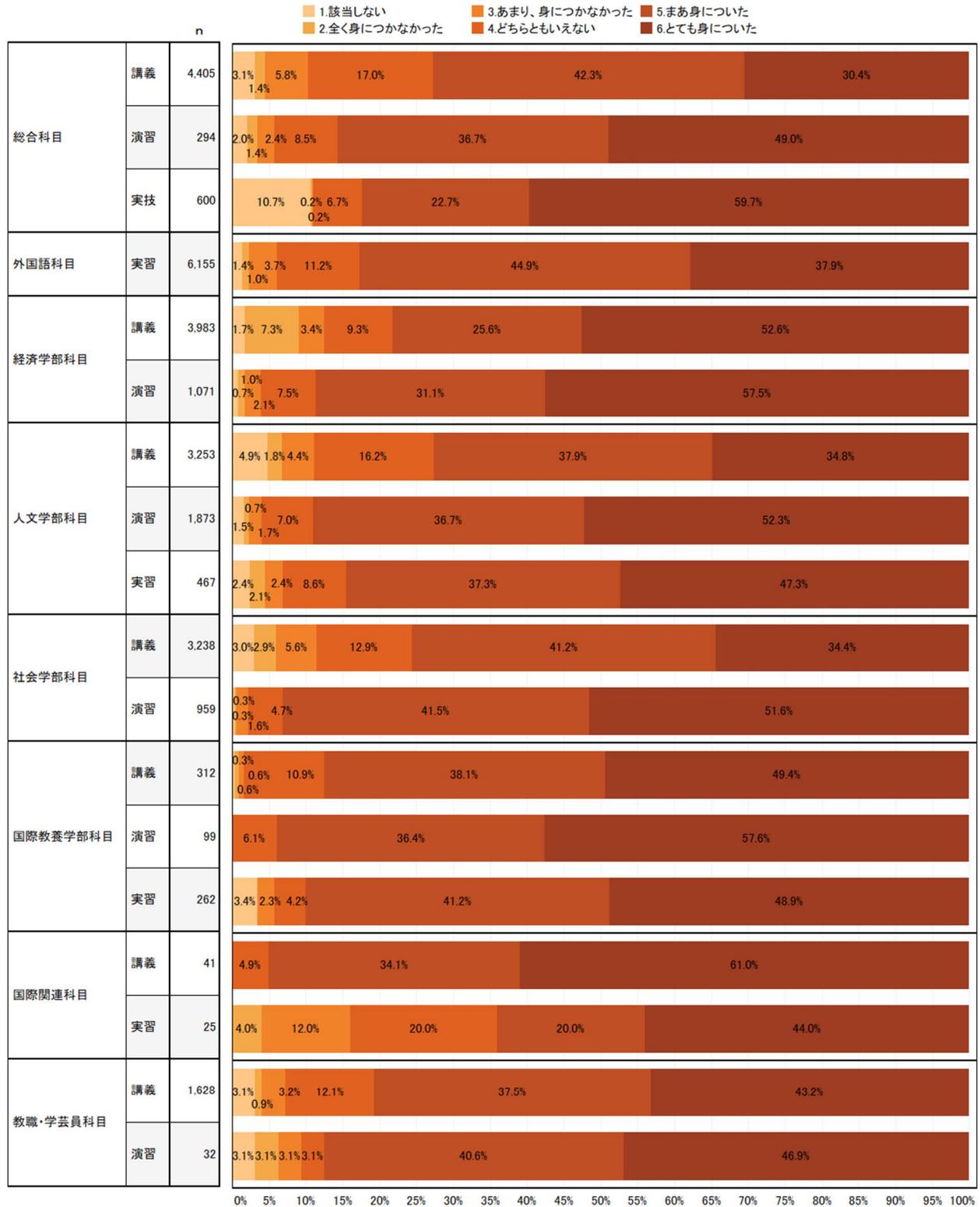
【設問Ⅲ-1】深い教養・幅広い知識



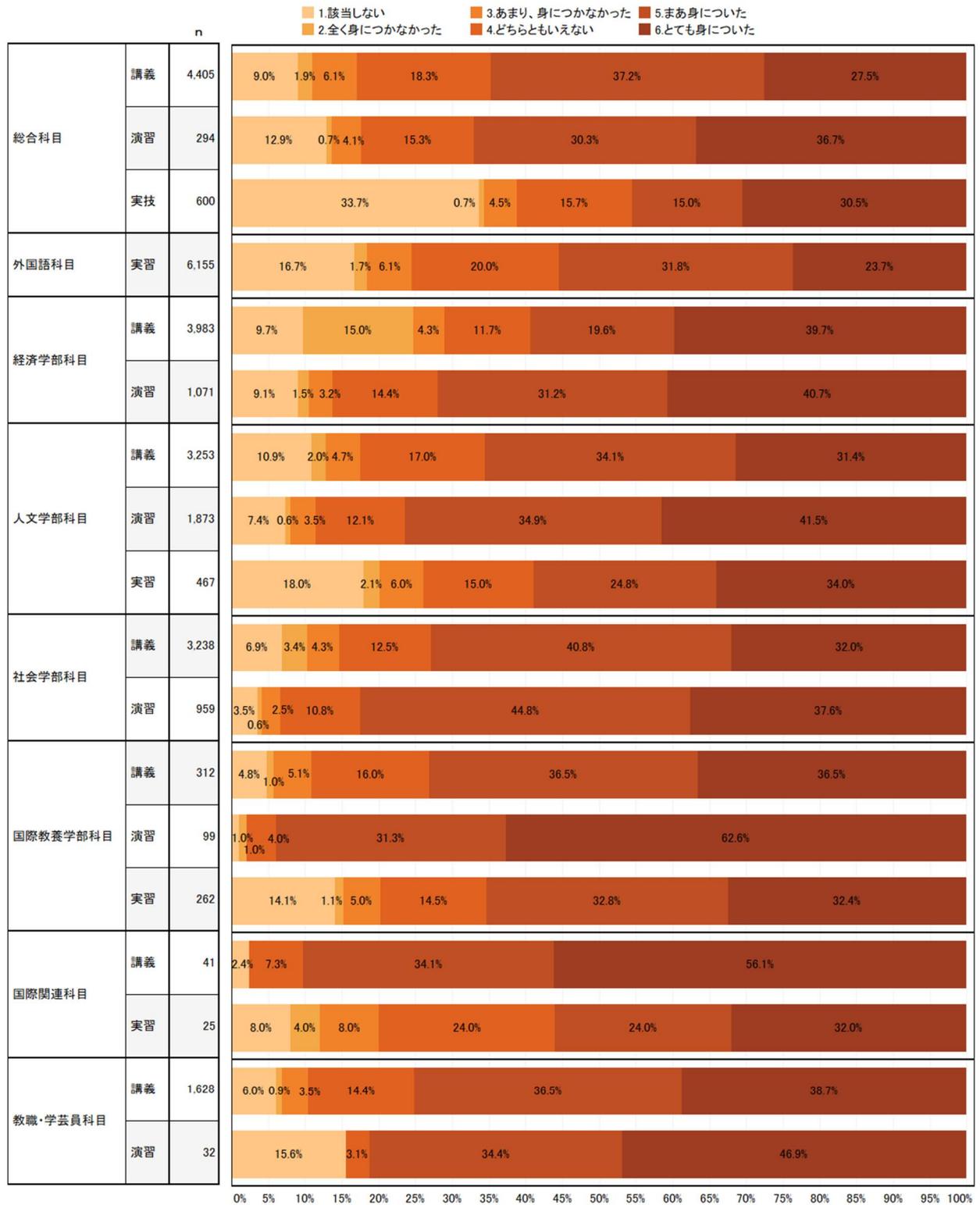
【設問Ⅲ-2】専門的知識



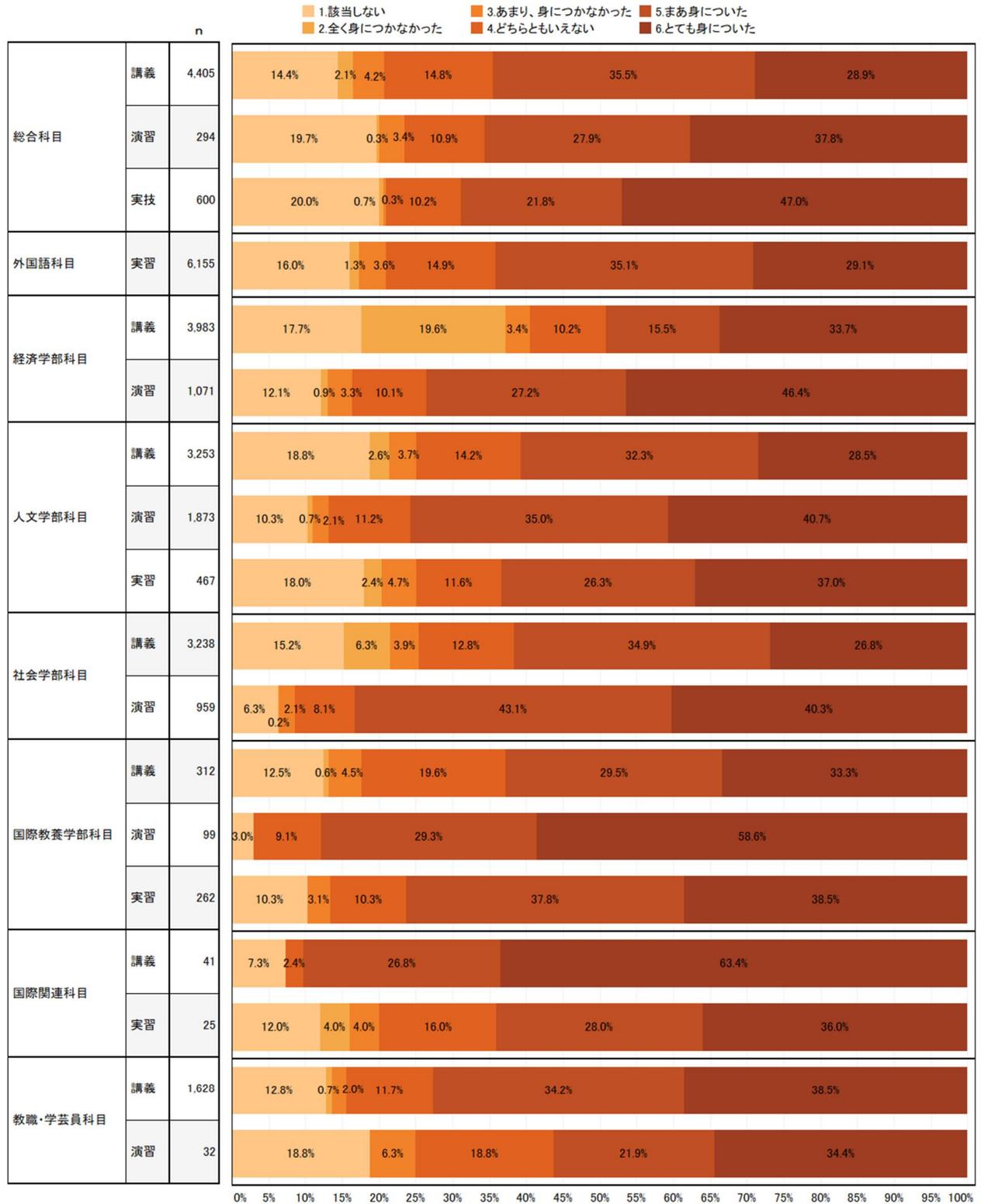
【設問Ⅲ-3】主体的な学習態度



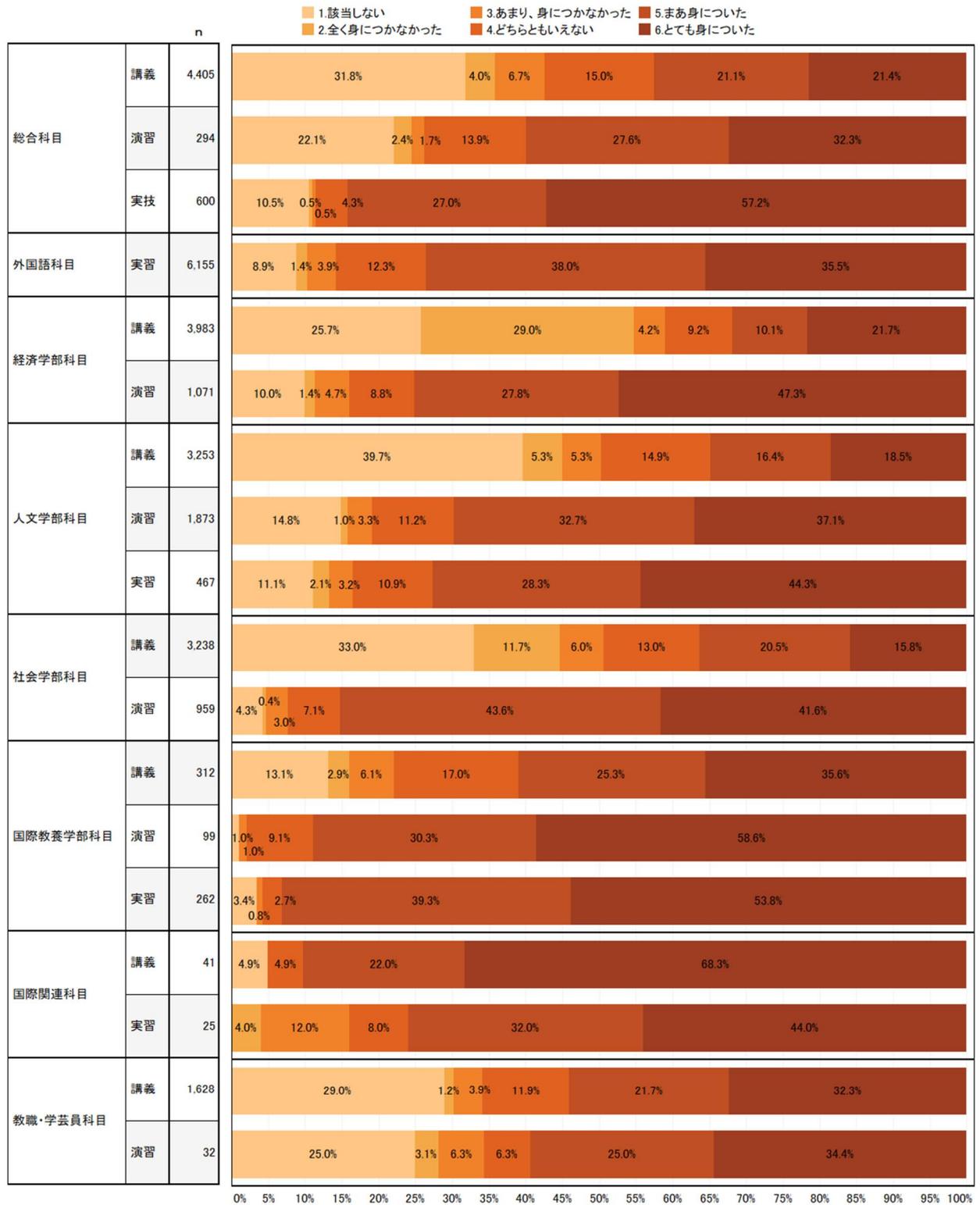
【設問Ⅲ-4】批判的な学習態度



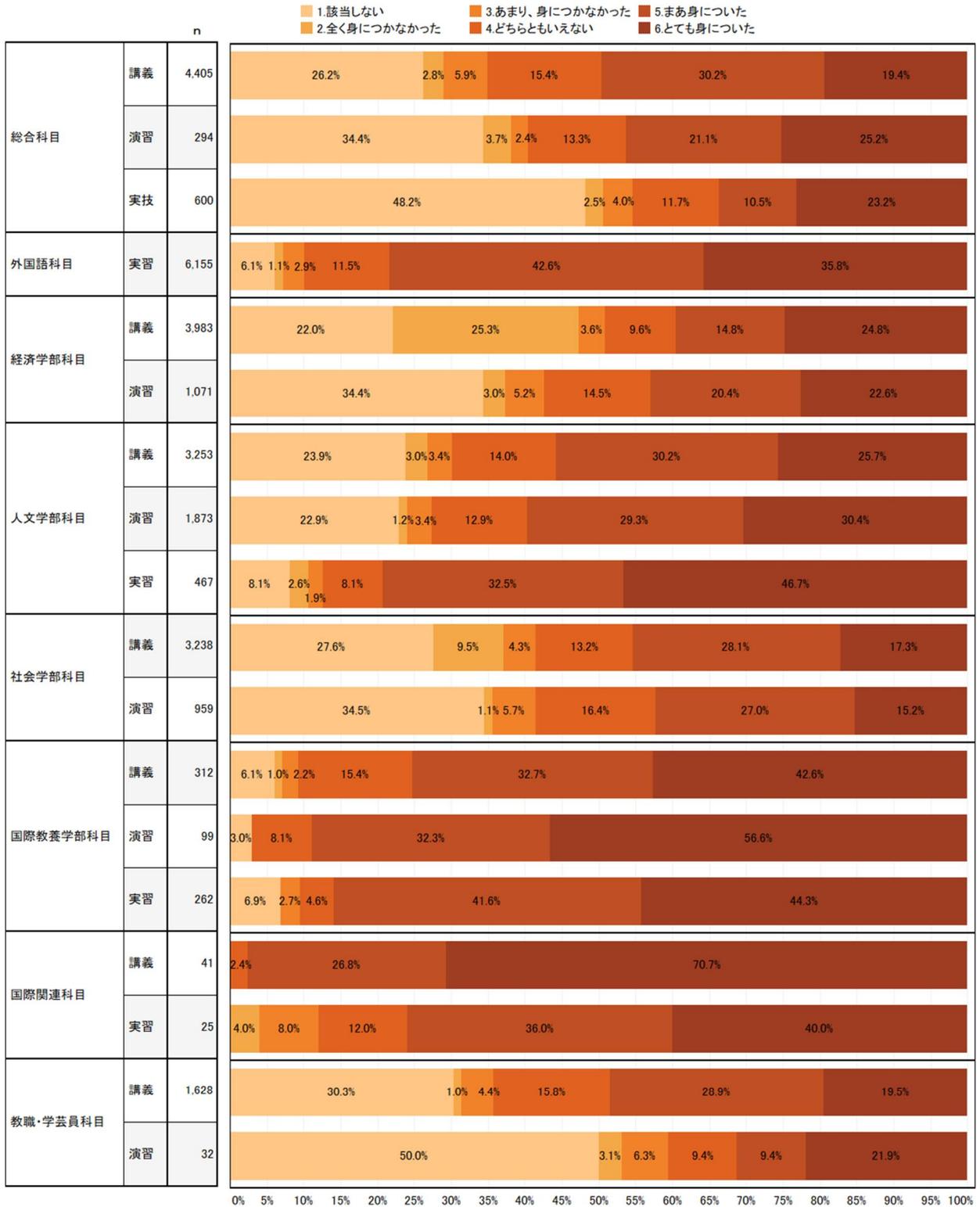
【設問Ⅲ-5】共感力



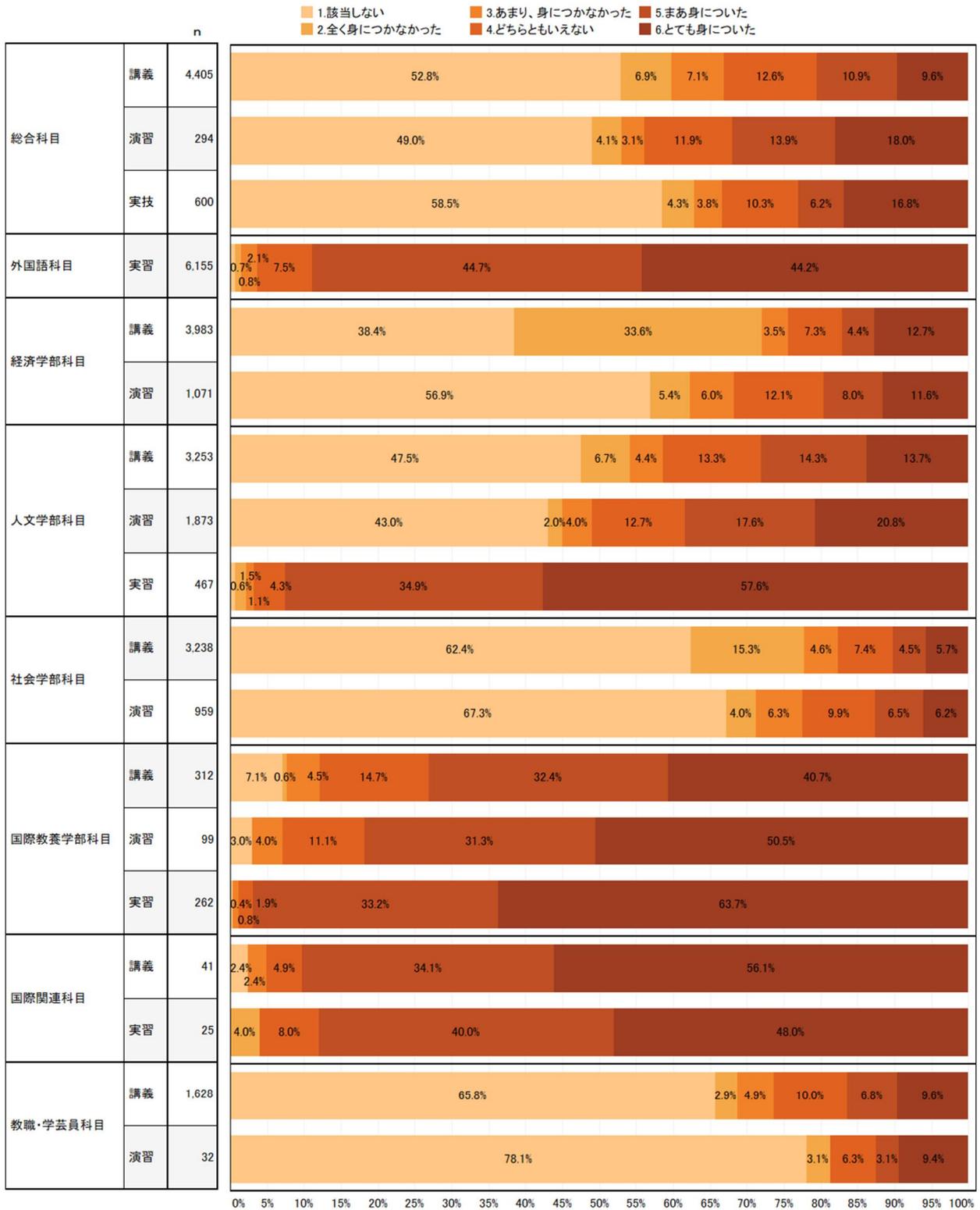
【設問Ⅲ-6】対話力



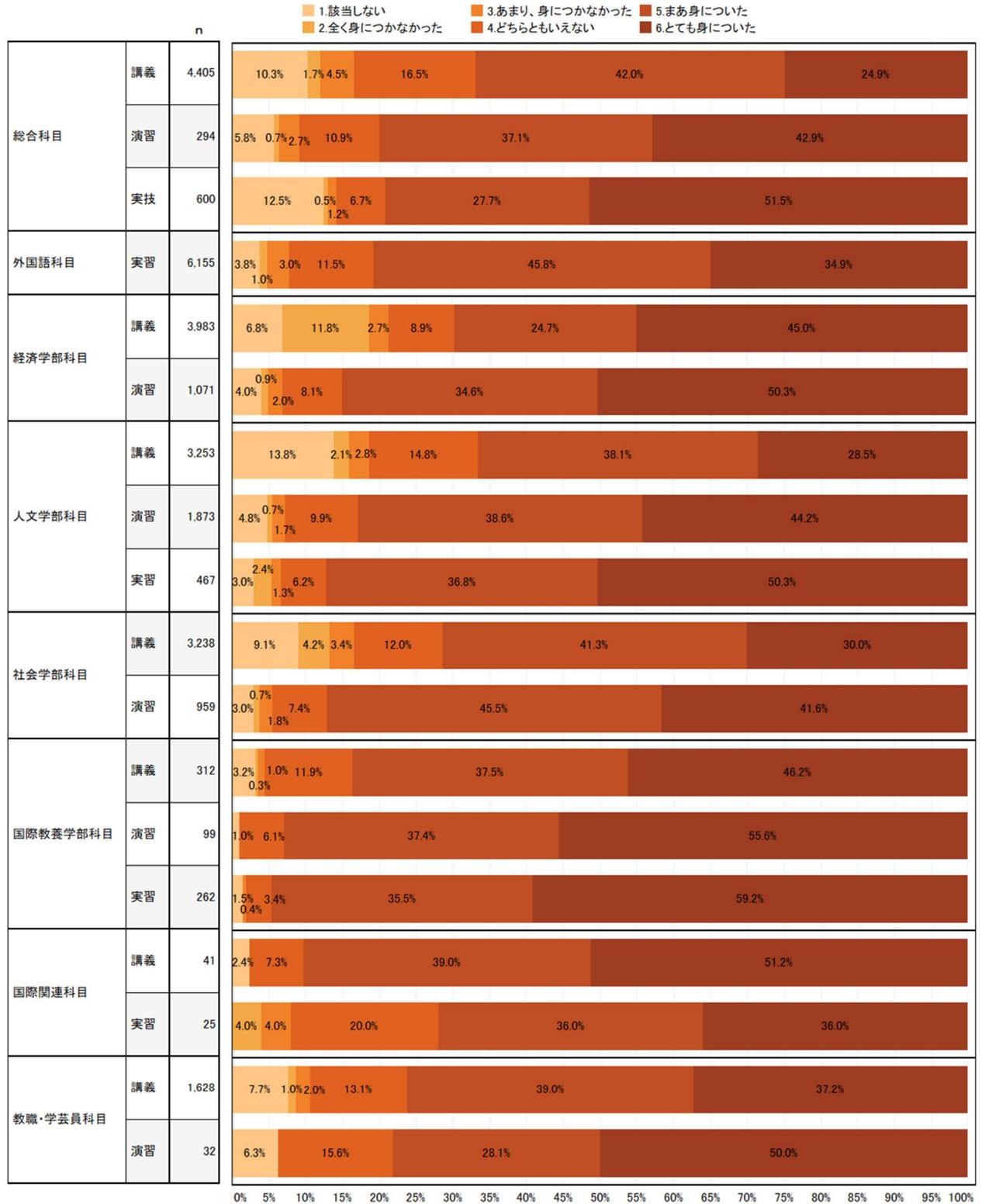
【設問Ⅲ-7】グローバルな思考力



【設問Ⅲ-8】外国語運用能力



【設問Ⅲ-9】学びを活用する実践力



1-4. 学生が選ぶベストティーチャー賞

本年度、全学部で実施した「学生による授業評価アンケート」の結果をもとに、学生の授業満足度が高い教員を選出し顕彰を行った。

総合満足度

評価対象

1. 講義科目のみ
2. 講義科目のクラス規模別の回答率を算出し、平均回答率の 90%以上の回答率があった授業
3. 回答者数が 10 名以上の授業

顕彰方法

各授業の履修者数等に応じて、下記の5クラスに分けて集計する。クラス別に設問:「総合的にみて、この授業は満足できた」及び「この授業を特に優れた授業として他の学生に勧めたい」のトップボックス(強く思う)の構成比を1:1で換算し、最上位であった教員を顕彰する。

- ◆小規模クラス1(10～29名)
- ◆小規模クラス2(30～59名)
- ◆中規模クラス(60名～99名)
- ◆大規模クラス(100名以上)
- ◆6時限オンデマンドクラス

自調自考賞

評価対象

1. 演習科目のみ
2. 演習科目の回答率を算出し、平均回答率の 90%以上の回答率があった授業
3. 回答者数が 10 名以上の授業

顕彰方法

設問:「自ら調べ自ら考えることが楽しくなった」及び「総合的にみて、この授業は満足できた」のトップボックス(強く思う)の構成比を1:1で換算し、最上位であった教員を顕彰する。

2025年度の「学生が選ぶベストティーチャー賞」受賞者は26名が選出され、受賞者には学長より賞状と副賞が授与された。

2015年度までは、3クラス・計12名のベストティーチャーを選出していたが、このベストティーチャー賞の受賞を励みにしたいという教員が多いことや、本学の「少人数教育」のメリットを生かした授業を少しでも多く顕彰したいという思いから、2016年度よりクラスを1つ追加した。2018年度には、「ゼミの武蔵」を代表するような授業を顕彰したいと演習科目を対象に「自調自考賞」を設けた。さらに、2021年度にオンデマンド授業が恒常的に導入されたことに伴い、「6限オンデマンドクラス」を追加し、5クラス・計25名を選出することになった。

今後も様々な基準を設けてそれぞれの分野で活躍されている教員を表彰したいと考えている。一方で、回答率が低いことで評価対象とならない授業が多い点が課題として挙げられるため、今後の検討課題としたい。

2025年度「学生が選ぶベストティーチャー賞」受賞者

【総合満足度】

《小規模授業の部1(10～29名)》

※敬称略、五十音順

担当者	科目名
阪本 真一	各国金融論(アメリカ)
ジェフ・ワステイラ	英語 I
ジョン・ハノン	TOEIC Training 2
苫米地 なつ帆	社会統計学2
望月 康司	スポーツ実践6(卓球)

《小規模授業の部2(30～59名)》

担当者	科目名
市川 衛	コンピューティング応用B
阪堂 千津子	現代韓国論2
森 健一	スポーツ実践1(バレーボール)
山崎 秀雄	イノベーション論
リンジー・モリソン	日本文化史1/日本環境文化史1

《中規模授業の部(60～119名)》

担当者	科目名
遠藤 耕二	簿記演習2
遠藤 瑞己	化学と現代社会
角田 かるあ	身体と芸術
苫米地 なつ帆	量的社会調査方法論/社会調査方法論A

《大規模授業の部(100名以上)》

担当者	科目名
天野 由莉	アメリカ史1
市川 衛	ドキュメンタリー研究
佐藤 克司	キャリアデザイン論B
トゥイ・グエン	各国経済論(アジア経済2)/アジア経済2

《6時限オンデマンドクラス》

担当者	科目名
岡安 儀之	日本思想史1
粉川 一郎	電子コミュニケーション論
船木 恵子	社会思想の歴史
山本 零	ファイナンス2

【自調自考賞】

担当者	科目名
エディー・ハーン	Global Studies Seminar 1
菊地 映輝	メディア社会学方法論ゼミ2/メディア社会学方法論ゼミ
新保 淳乃	中級ゼミナール2/中級ゼミナールB2
鈴木 正明	教養ゼミナール